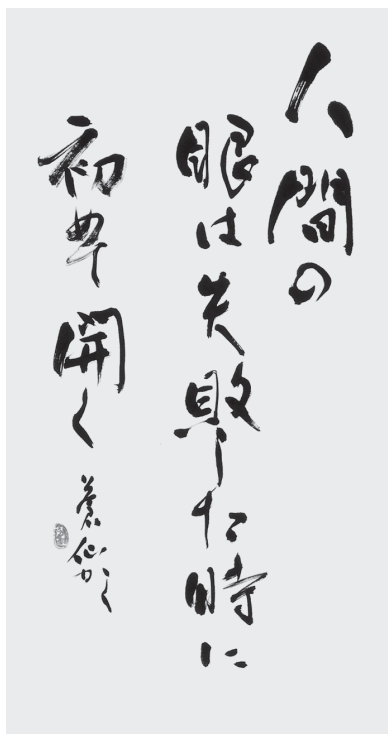


二科・三科参考手本（半切2分の1サイズ用）

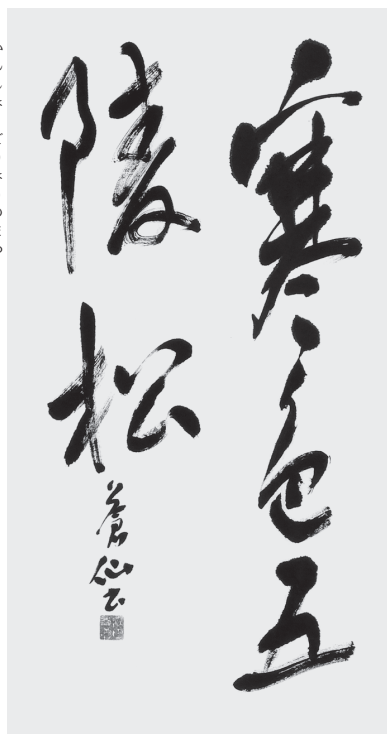
▶二科・三科は、半切2分の1サイズまたは半切のどちらかで出品して下さい。課題は自由ですが、半切2分の1サイズを選択した場合、下掲の参考手本によりご出品いただくこともできます。

人間の眼は失敗した時に初めて開く



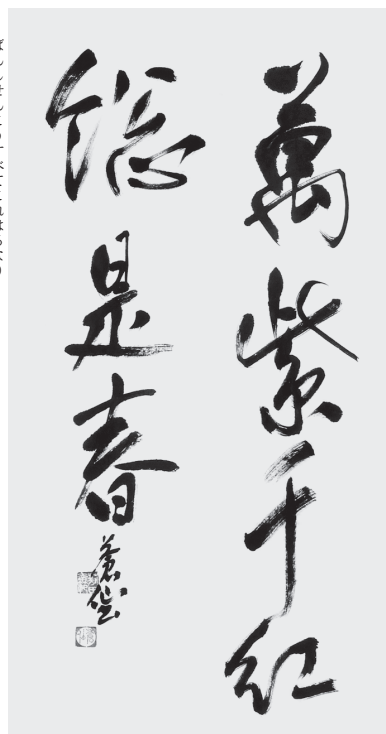
荻田蒼仙書

かんしよくこりようのまつ
寒色五陵松



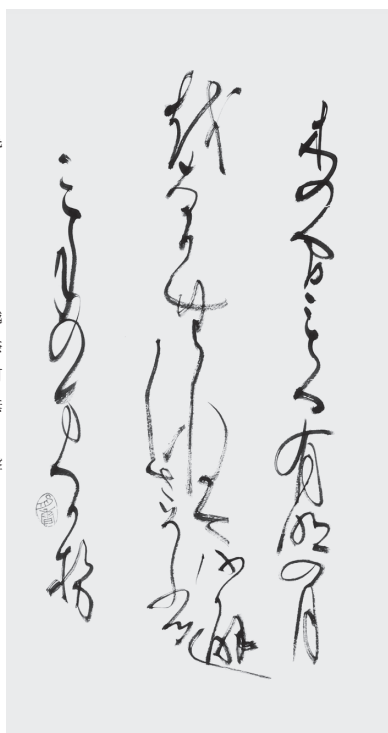
荻田蒼仙書

ばんしせんこうすべてこればるなり
萬紫千紅総是春



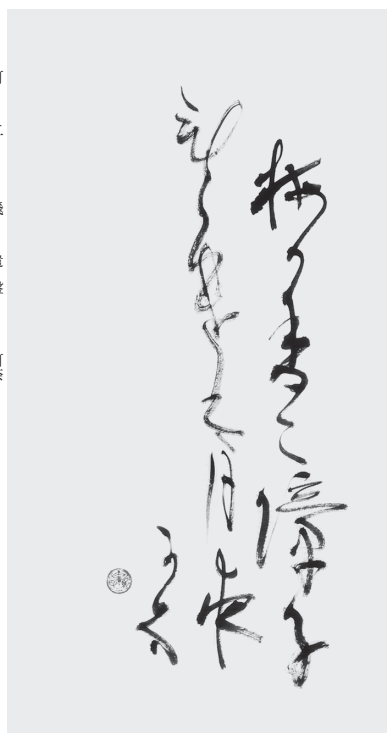
荻田蒼仙書

木の間^毛洩る有明の月を^越なが^可む^無れば^盤
さびしさそふる峯の松風（山家集）



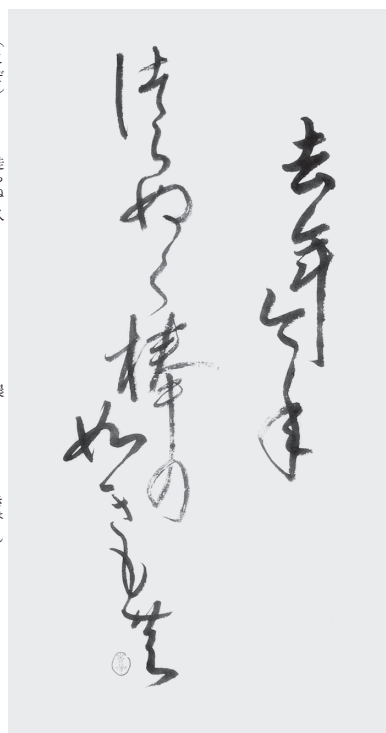
築瀬舟香書

梅^可が香^二に障子^飛ひ^造ら^盤げば月夜哉^可（一茶の句）



築瀬舟香書

（こぞ）
去年^{徒らぬ久}今年^農貫く棒の如きもの（高浜虚子の句）
（きよし）



田中貴光書

憲照先生の手本ア・ラ・カルト
(à la carte)

締切り 一月二十五日 (必着)

昭和60年12月

も	明	何
ら	日	か
た	に	一
い	希	つ
	望	で
	を	も

つけペン・墨汁使用

〔解説〕

何

か

リズムよく
圧の変化

小さめに

フ

背勢

右のタテ画
太く

筆順注意

望

も

小さくまとめる

た

- ◎ 本会は、今年で創立六十六周年を迎えます。昨年はコロナ禍で、世界中が混乱に陥り、本会としても過去にない大打撃を受けました。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。
- ◎ この現状を踏まえ、今年の短期特別課題は、『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。一種類を四ヶ月交替で掲載していく予定です。
- ◎ 多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。
- ◎ 創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

〔作品の出し方〕

- ▼ 今回は硬筆部だけに限ります。全員本会級位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。
- ▼ 硬筆ならば用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。
- ▼ 出品制限の対象とはなりません。
- ▼ 事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。
- ※ 不明な点は無記入でも結構です。
- ▼ 優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。
- ▼ 月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様をお願いします。

★ 何か… (書体Ⅱ行書)

たとえ、なすべき仕事が無くなり、将来に不安があったとしても、何か一つでも希望を毎日もちたいものである。生きている限り、この地上には大小の差はあれ、誰にでも為すべき使命があり、その使命が自分を待っているような気がする。

常に希望を胸に、明日を迎えようではないか。

一般部規定課題

締切り 1月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔楷書字例〕

畏

恐

違

若

知

※「恐」は書写体

高い位置で

◎今回は、楷書の字例を書いてみました。教範・書範用です。楷書に少し丸みをもたせ、一部つなげた
り、少しテンポアップして気脈を通すと行書になります。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

若い人は知らない
恐れるとの違いを

おく 村 暢 之 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕

使

耗

増

物

智

力

智	使	使
と	え	わ
力	ば	ね
と	増	ば
な	え	耗
り	る	り
	物	て
	は	

おお たに せい じょう 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★使わねば…（書体＝楷書）

海保青陵（二七五五～一八一七）

江戸時代後期の儒学者・経世家

「智と力とは空位なれば、金銀と違って、出せばへるということなき物」であるから、知恵と力を出し惜しみせずにとんどん使え、使わないとかえって耗ってしまうというのです。

知恵と力が商いの元手になることは、今も昔も変わりがないようです。

◆2月課題予告（行書）

人間は地位が高くなる程
足元が滑り易い

★畏れると…（書体＝行書）

遠藤周作（一九二三～一九九六）

小説・随筆家

「恐れる」とは怯え怖がること。「畏れる」とは、自分をはるかに凌駕する存在にして震撼し、おののくことで、人々は、自分を超えたものがなす審判に身をさらすことを拒むようになりました。そして自らに厳しい要求を課することもなくなったのではないだろうか。

◆2月課題予告（行草または草書）

旅というのは
時間の中に純粹に
身を委ねることだ

▼教範・書範＝行書

▼師範＝楷書

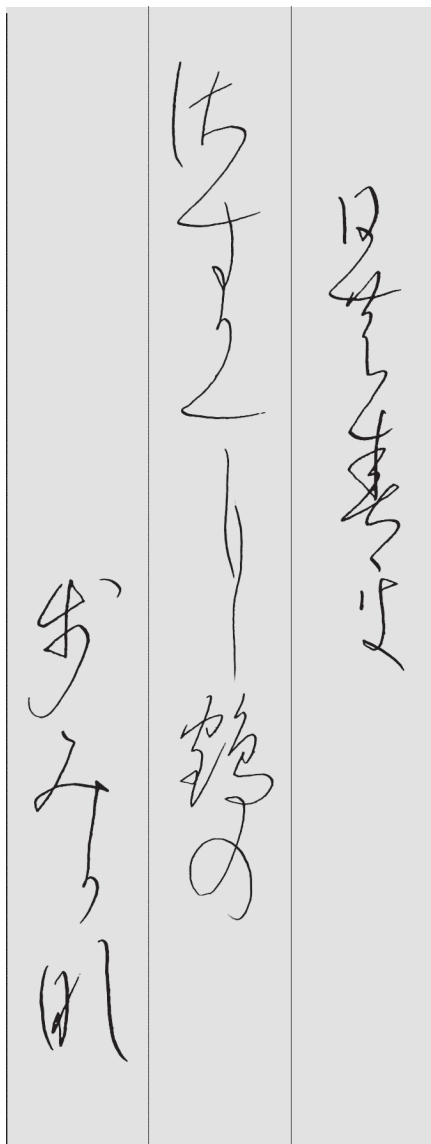
一般部かな課題

締切り 1月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

日の春をさすがに鶴の歩みかな

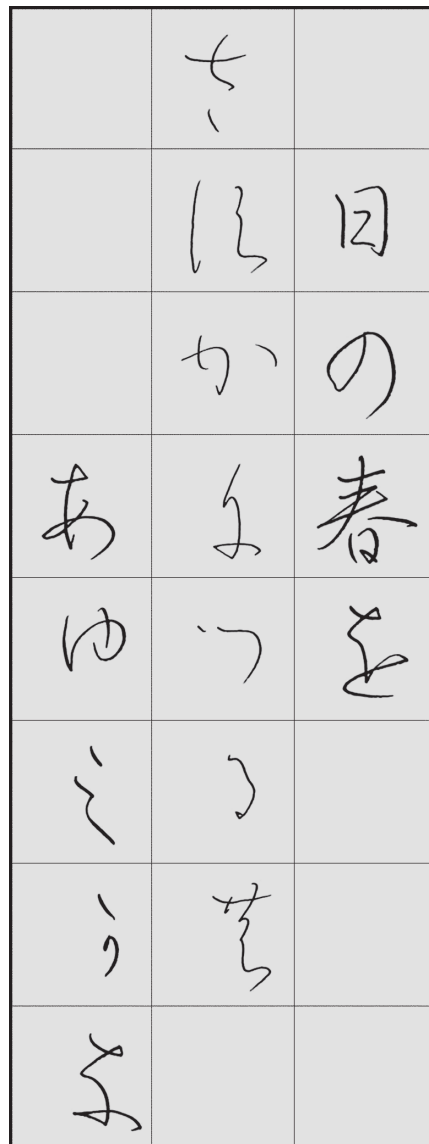


たなかきこう 田中貴光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

日の春をさすがに鶴の歩みかな



たなかきこう 田中貴光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆2月課題予告

木枯に二日の月の吹き散るか
(山本荷兮)

〔解説〕〈春〉の草書の〈春〉は
〔はる〕として使い、〈春〉は変体
仮名の〈す〉としても使います。

農の 春 春 春 春 春
乎を 春 春 春 春 春
佐さ 春 春 春 春 春
須す 春 春 春 春 春
那な 春 春 春 春 春

〔古筆参考〕

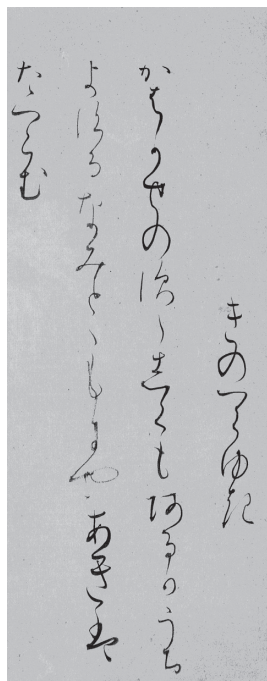
日の春をさすがに鶴の歩みかな
(榎本其角)
〔句解〕元日の朝日のさし出する中を、
めでたい日にふさわしく、鶴が気品の
あるさまで、ゆったりと歩いている。
▽さすがにいかにふさわしく。
〔鑑賞〕貞享三年(一六八六)の歳
旦吟(元旦吟)で、松尾芭蕉の評注
『初懐紙評註』に「元朝の日は
なやかにさし出て、長閑に幽玄なる気
色を鶴の歩みにかけて言ひつらね侍る。
祝言、外にあらはす。「さすがに」と
いふは感多し」とある。

締切り 一月二十五日（必着）

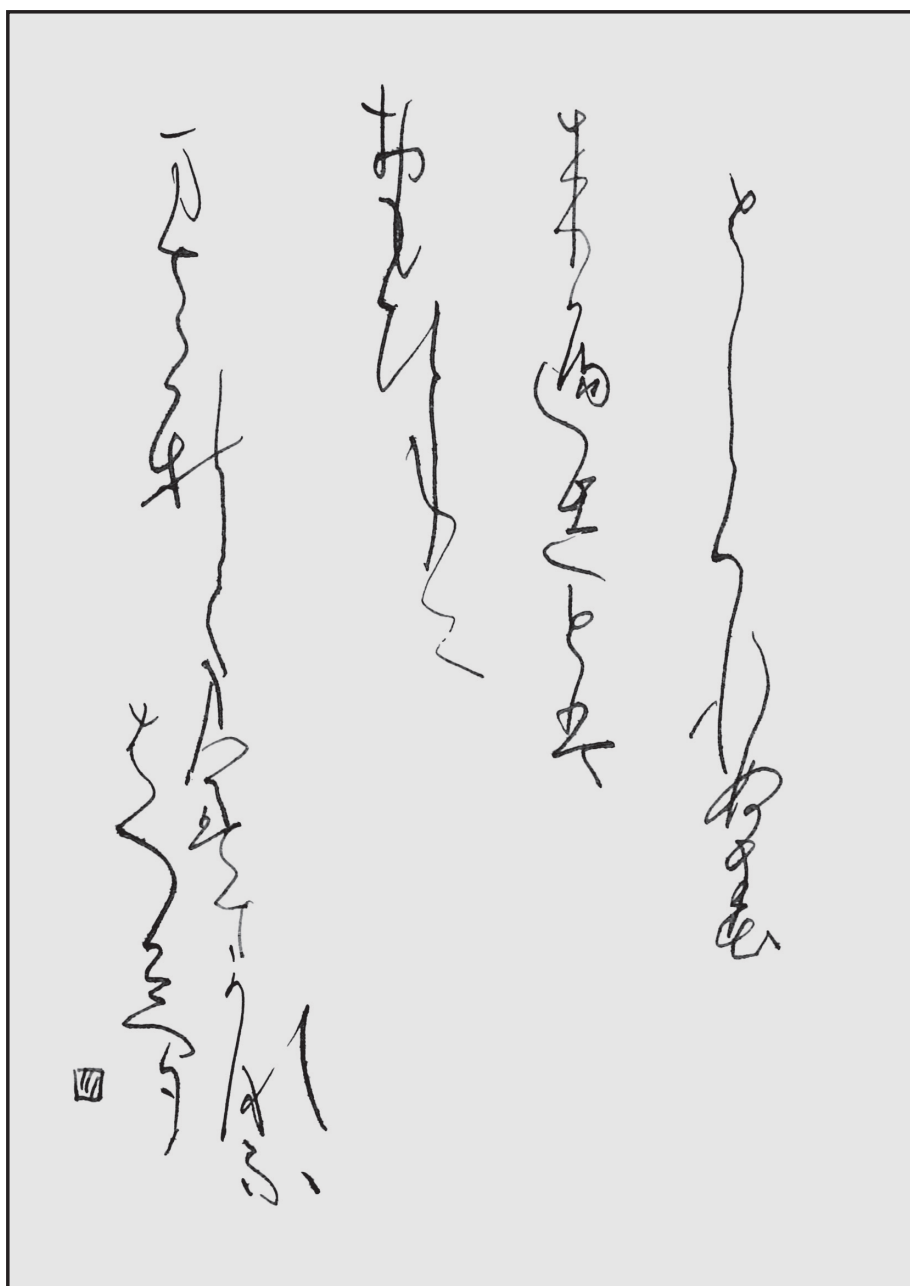
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

せき ど ほん こ きんしゅう
関 戸 本 古 今 集



きのつらゆき^起
 か^者は^可か^須ぜ^志の^阿す^可ぐ^可しく^可も^可ある^可か^可うち^可
 よ^須する^爾な^整み^整と^整ゝ^整も^整に^整や^整あ^整き^整は^整
 た^整つ^整ら^整む^整



明けましておめでとう御座居ます。
今年も会長先生の御依頼により拙い
お手本を書く事になりました。皆さん
とご一緒に勉強して参りましょう。宜
敷くお願い致します。

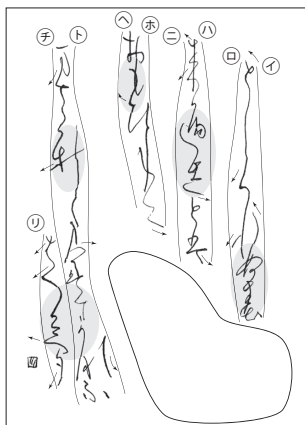
今年は「かな」の基本と云われている『関戸本古今集』を学びながら「山家集」の歌を書く事に致しました。

年暮れぬ春来べしとは思ひ寝に
もく へる くる べし とは おもひ ねに
万新 盈可那者つ
 まさしく見えてかなふ初夢

〔歌意〕年も暮れてしまった。新春がやって来るであろうと、その喜びを思って寝たところが、初夢に霞たなびく立春の景を見、目ざめるとたしかに夢が叶って霞たなびく春となっていた。

〔出典〕山家集（新潮日本古典集成）

〔解説〕



- イとロ、ハとニ、ホとヘ、トとチ
- イと二、イと△、イとチ、ハと△、
- ハとチ、ホとチ、それぞれ呼応。
- 行の密の部分の動き大切。
- ↙ の方向・場所大切。
- ○ 余白大切。

◆2月課題予告

山の端の霞むけしきにしるきかな
今朝よりやさは春の曙

締切り 1 月 25 日(必着)

輝く新春を迎え、先生には、ご健勝の事とお慶び申し上げます。私事、先日転勤先から帰って参りました。久しく休会しておりましたが、今春より再びご指導賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

輝く新春を迎え、先生には、ご健勝の事とお慶び申し上げます。私事、先日転勤先から帰って参りました。久しく休会しておりましたが、今春より再びご指導賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

横 書 き 課 題

お 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

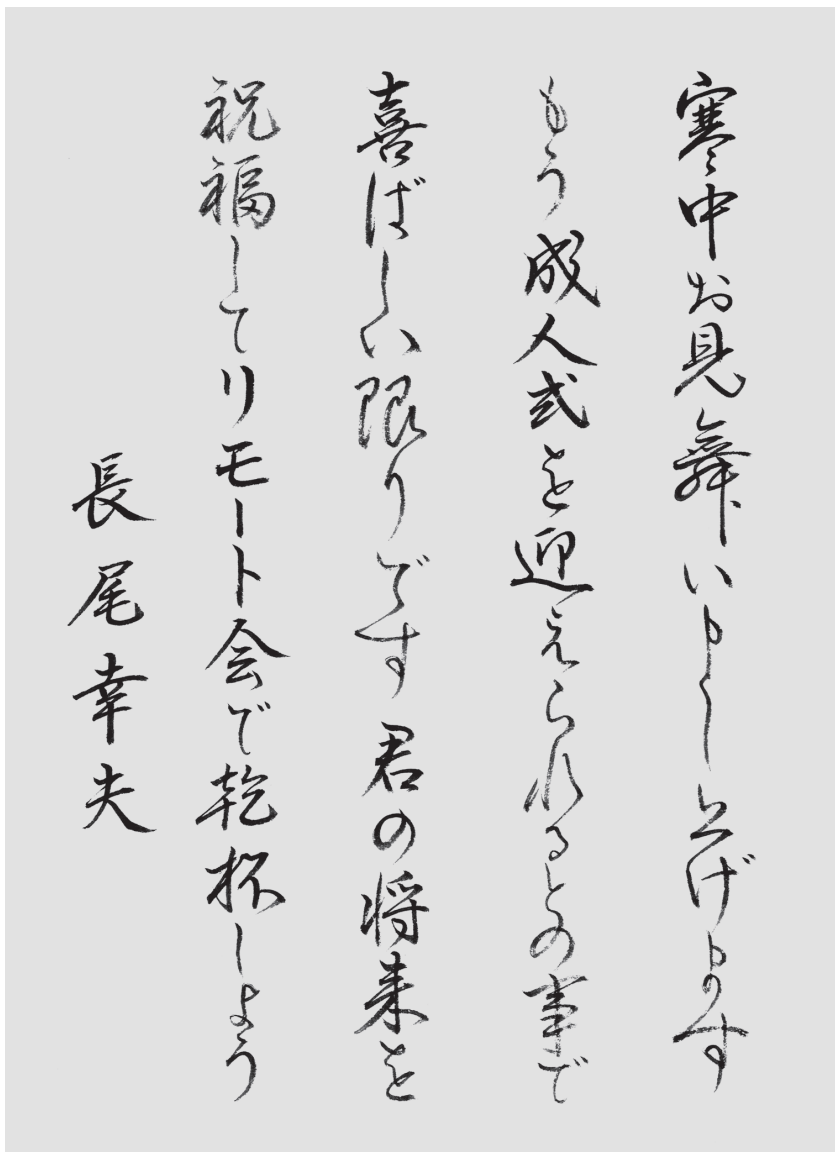
日本最初の鉄道始発駅の新橋駅は
現在の汐留貨物駅跡にあった。

福井県越前市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 香 梅 藤 伊



花柳春全盛

楊誠齋

締切り 一月二十五日 (必着)

半切 (126cm × 35cm)

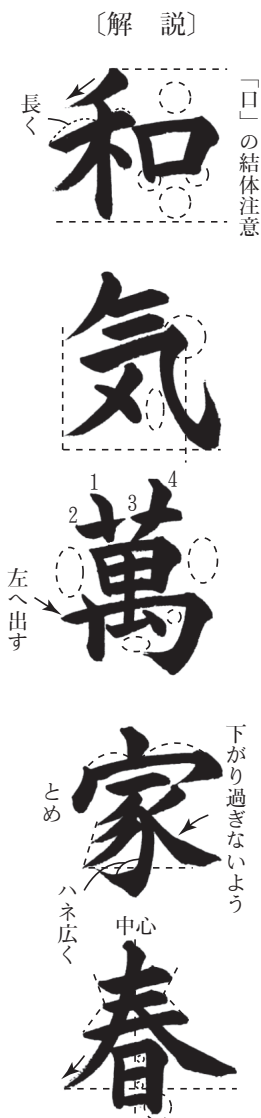
荻田蒼仙書

- 〔条幅解説〕
私の頭髪のような使い古した筆がありました。それを使用したので、種々な評があると思います。只、いつも小字数作には手こずっています。自己添削をして自分のクセを正す一年にしたいと思います。
- 寒中お見舞い申し上げます
もう成人式を迎えられるとの事で
喜ばしい限りです 君の将来を
祝福してリモート会で乾杯しよう
(ご自分の氏名)
・印で墨つぎしました。
- 〔条幅・細字作品の出し方〕
■ 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
■ 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔大意〕花明らかに柳みどりに、春は今がまさかり。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

新入から1級まで(楷書)

須田 一葉書



わきばんかのほる
和気萬家春

〔大意〕和やかな空気が、どの家にも満ち溢れる新春である。

◎文房四宝について

書を学ぶにあたり、必要な用具の中で筆、墨、硯、紙を文房四宝と言う。

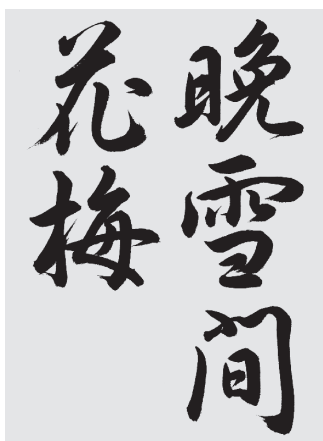
○筆について 筆は書く文字によって大小、長短、剛柔を選ぶ。

剛毛筆は馬毛など硬い毛で作られているので柔らかい線は出にくい。

羊毛筆は柔らかい獣毛で作られているので味のある線―柔強軟靱を兼ね備えた線が表現できるが習得が難しい。

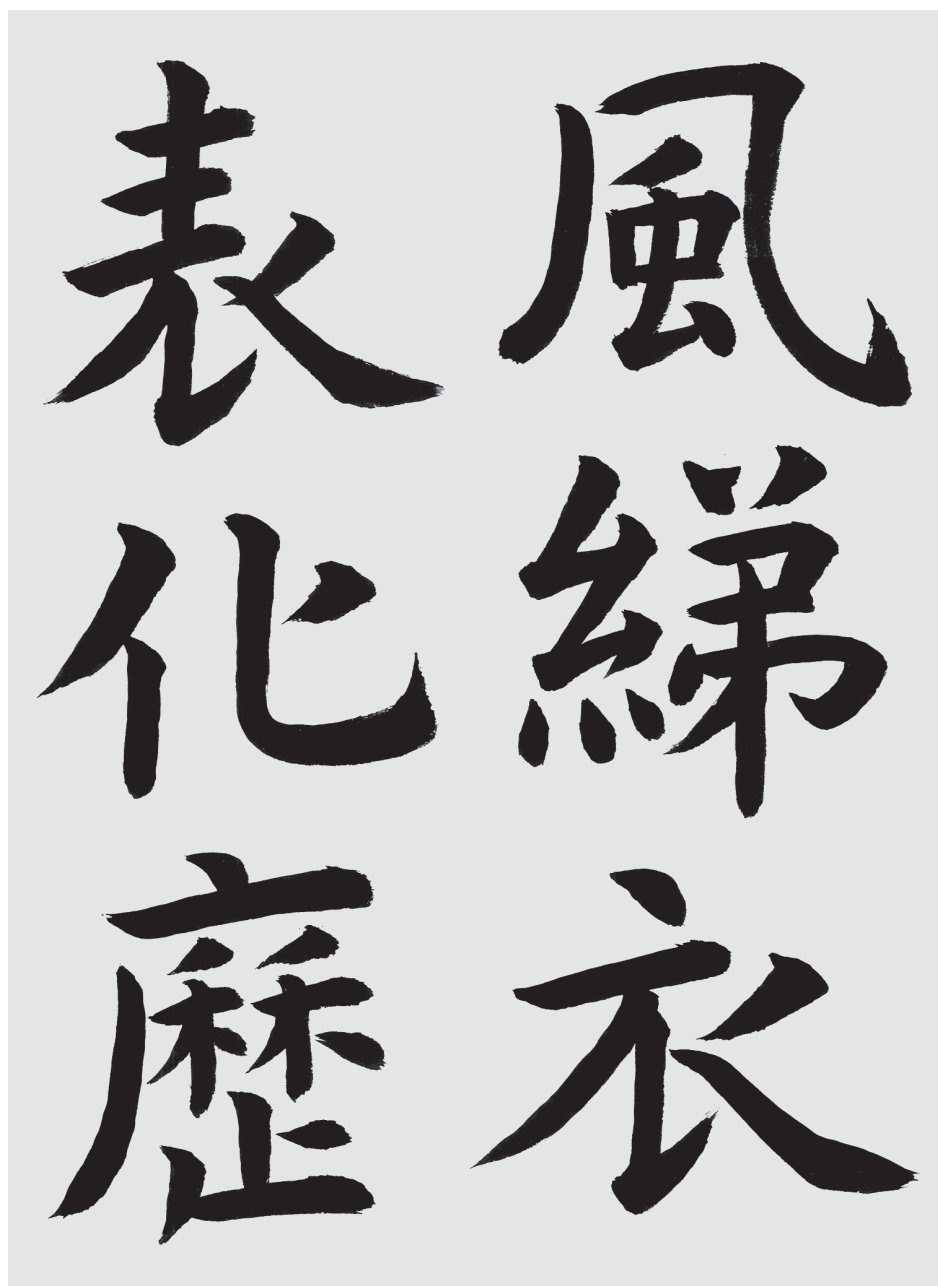
兼毫筆は剛毛と羊毛を混合して作った筆で、初心者に適しているとされます。

◆2月課題予告(行書)



準初段から師範まで

奥村暢之臨



風
綈
衣
表
化
歴

〔解説〕

〔出典〕 孔子廟堂碑（六二六～六三三）

〔筆者〕 虞世南（五五八～六三八）

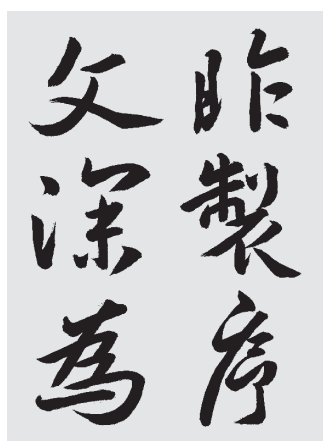
〔読み〕 風を（垂れ）綈衣もて化を表
わす。（列辟を）歴（選し）

左右バランス良く

空間をそろえる

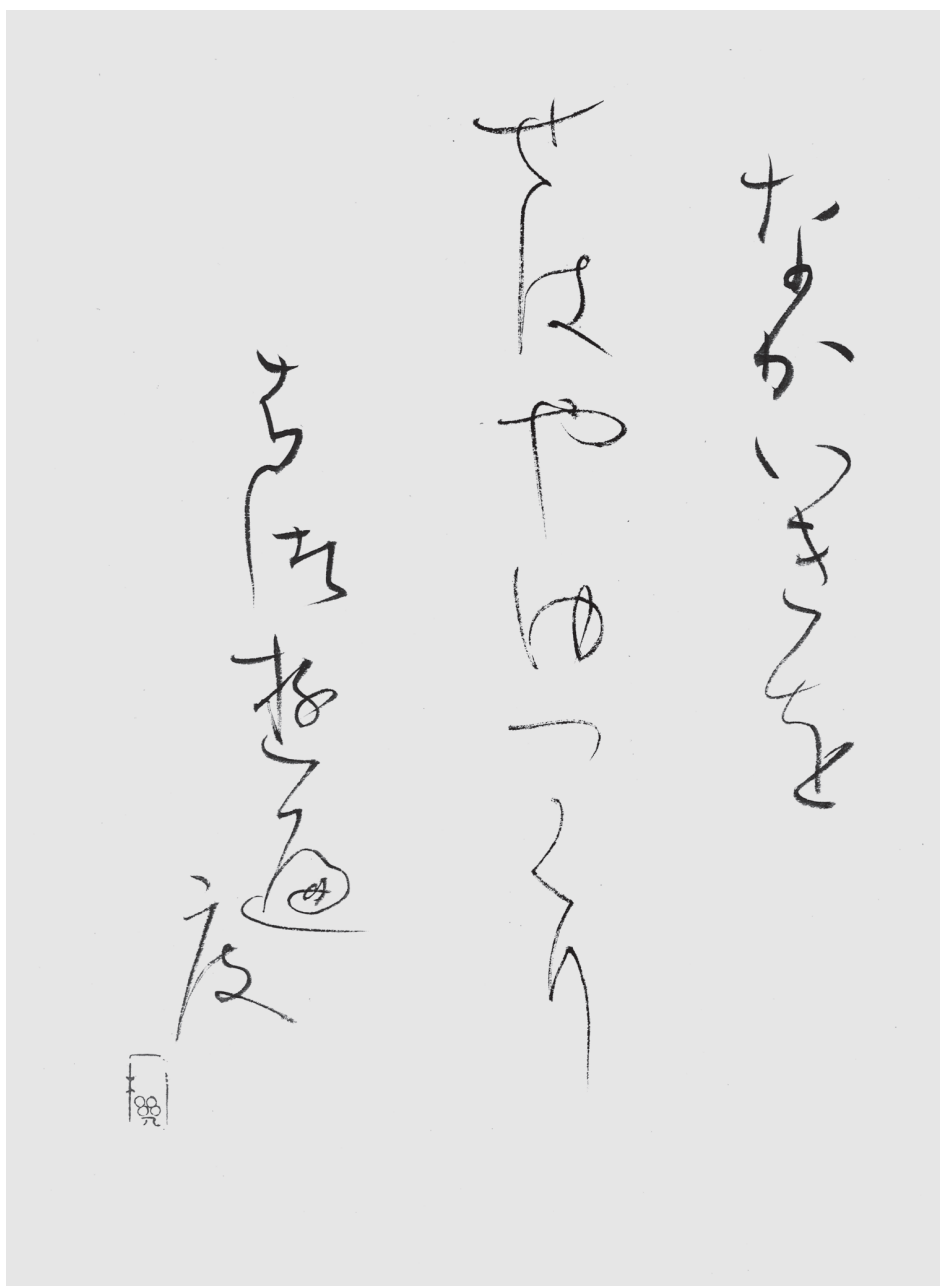
少しだけアケル

◆2月課題予告



新入から1級まで

浅井機山先生書



長生^{ながい}きをせばやゆつくり初湯^{者徒遊遍度}へと

〔句意〕新春の気分の中に、ますます老いの身を大切にしようとする意志の表れた句。

池内たけし「その後」

◆2月課題予告

梅二月^{くわつ}ひかりは風とともにあり

〔解説〕

まず全体を見ると、行頭は2行目で少し上げ、3行目でストンと落とした感じです。

行尾の方を見ると、2行目が1番下に来て、1行目は上へ、3行目はちよつと上へ、という感じ。ただ3行目は最後の字「度」がはみ出しているの
で「遍」と「度」が合わさって重くなっています。

それでは1行1行見ていきましょう。
「なかいきを」、「な」は、軽やかに十字を書き、その後からはじっくり書き進みます。「なか」の連綿線はくるっと回って直線でつなぎます。「い」はたたくように入って跳ね上がり2画目をゆっくり書き、「き」へ細めに連綿します。

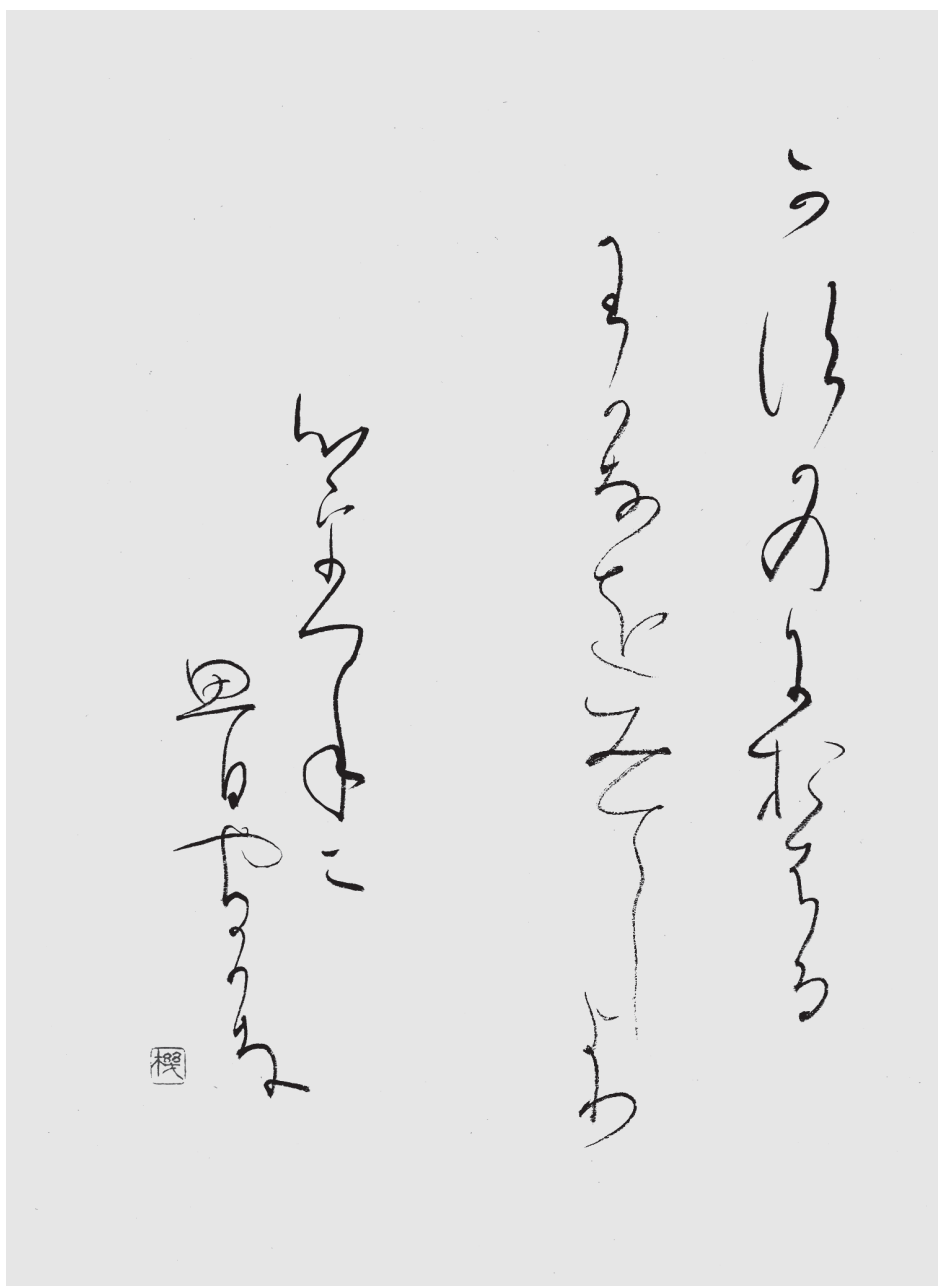
「き」から「を」への連綿は直線で書きながら、ゆっくり方向を変えて「を」の第1画を書きます。

「せはやゆつくり」、「伸びやかに」「せ」の第1画を書き、縦線は「は」の第1画まで123とリズムに乗って書きます。「や」「ゆ」「つ」と文字を切ってリズムに乗って〈放ち書き〉します。ここでは、微妙な〈字間の疎密〉にも注意が必要です。それから、「く」は上の流れをしっかりと受けて、「り」は伸びやかに1行を締めくくります。

「者徒遊遍度」、墨量がなくなった筆にへたっぶり墨継ぎして、余分の墨を反故紙で拭って、から書き出します。「者徒」の連綿線は反動を使って書きます。〈連綿の反動法〉と言います。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



可須可の尔於不王可奈み
春日野におふる若菜を見てしより

心平年二日を可奈
心を常に思ひやるかな

〔歌意〕

春日野に生えている若菜を見てからは、いつも心にその美しさを感じている。

◆2月課題予告

古九谷の赤絵の鳥も水仙の

花もつめたし人待ちてあれば

〔解説〕

まず全体を見てみましょう。

行頭をつないでみます。「可」「王」「心」は、ほぼ一直線上にあります。それがストンと落ちて「思」で受けています。同じ一直線上にしないで、それをサッとかわす受け方が大切です。そこに柔らかさとか、優しさとか、柔軟な心とかがあるのです。これが日本らしさの受け止め方と言ってもいいかと思います。

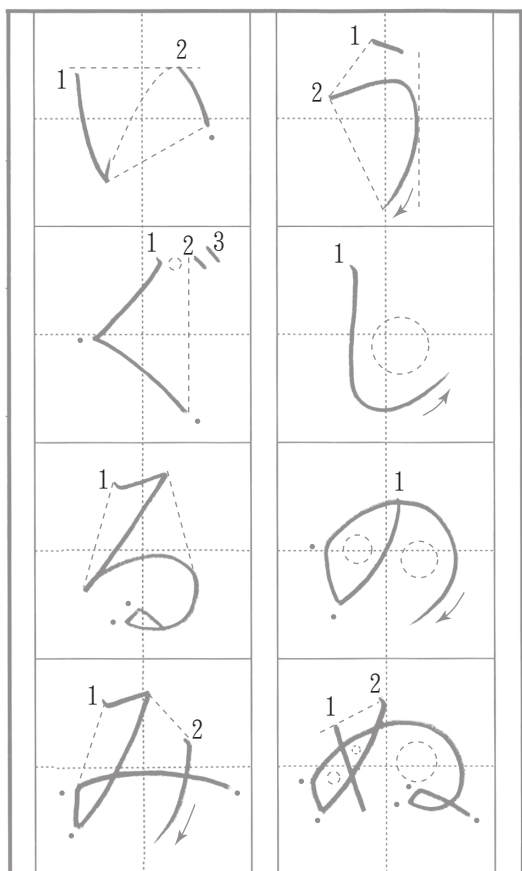
さて行尾を見ていきましょう。「る」「利」「奈」をつないでみると柔らかな舟底型になります。舟底型というのはすごく安定感を作り、散らし書きでは多く用いられます。

それでは1行1行見ていきましょう。「可須可の尔…」、小さく大きく小さく大きく3回繰り返して「不る」で1行を終えます。

「王可奈を…」、「王」を1行目より少し下げて横線は短く縦長の字形に書き出し、「可」への連綿を勢いよく左斜めにはじき出すようにしています。これは1行目の「須可」の書き方と同じです。「奈を」で左右に揺らしながら「みて」で大きく左右に振り、「し」はゆったり上部を受けながら書き終えます。しかし、行尾の位置を充実させるため「よ利」を添えて書き終わります。「心乎年二」、漢字の「心」は好きな字形で書いて下さい。

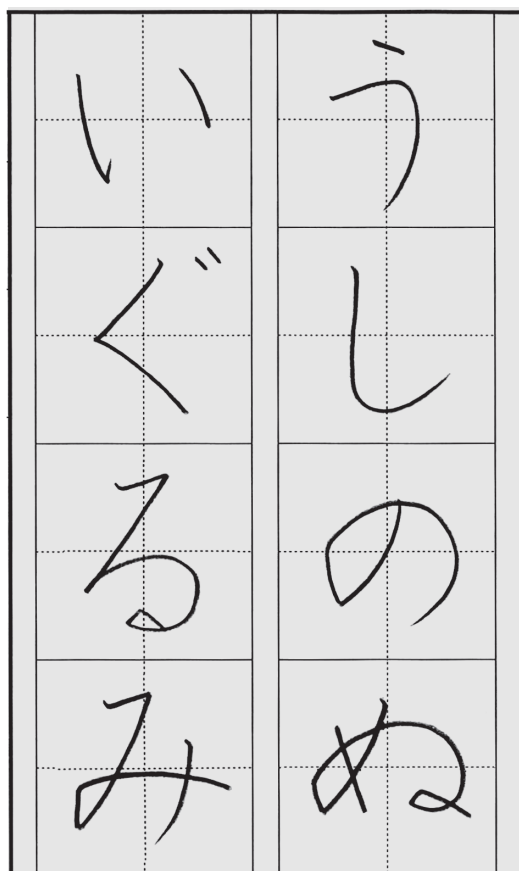
「思日やる可奈」、ひねりのきいた「奈」で全体をまとめます。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



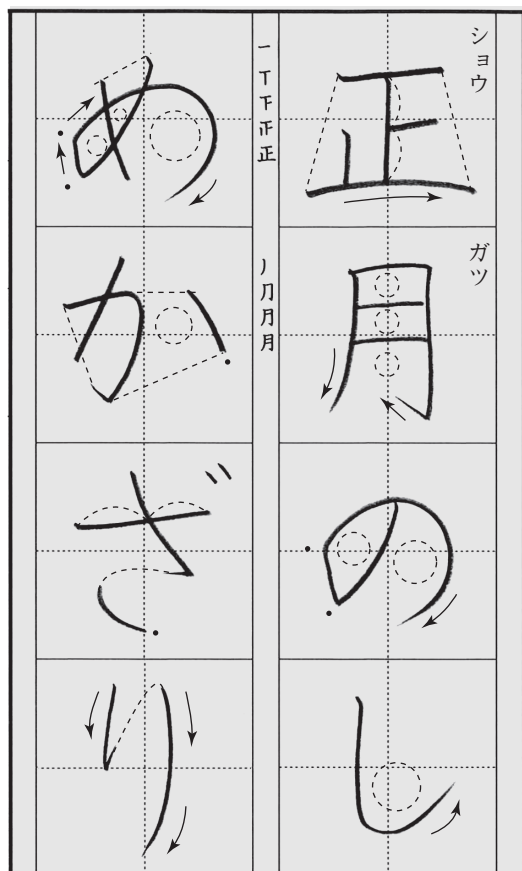
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



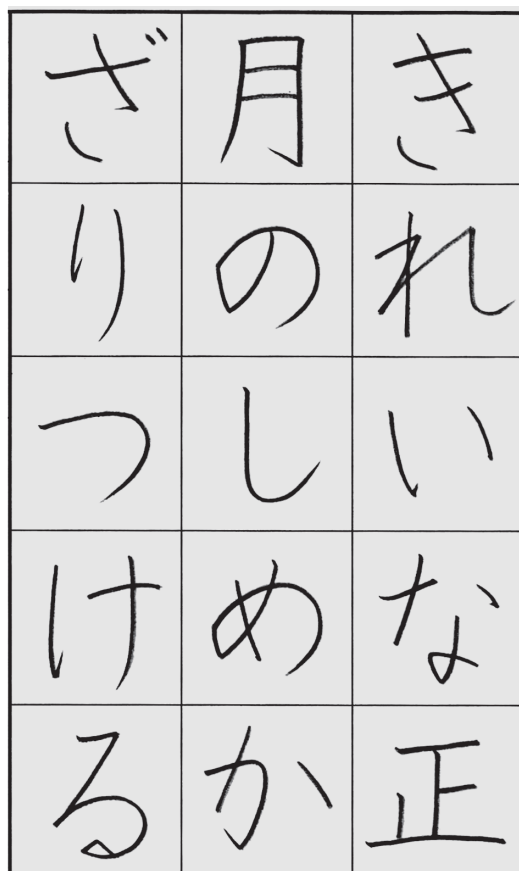
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

る	雪 ゆき
ふ	が
じ	つ
山 さん	も

新入1級

じ	が	元
山	つ	日
を	も	の
見	る	朝
た	ふ	雪

小 二 年
準初段以上

生 い	根 ね
き	を
る	は
力 ちから	い

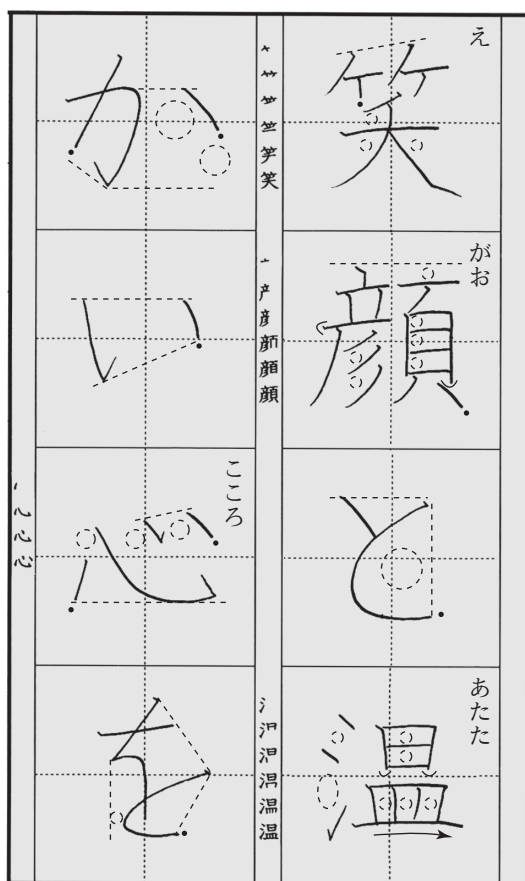
新入1級

き	は	地
る	り	面
花	強	に
の	く	根
力	生	を

小 三 年
準初段以上

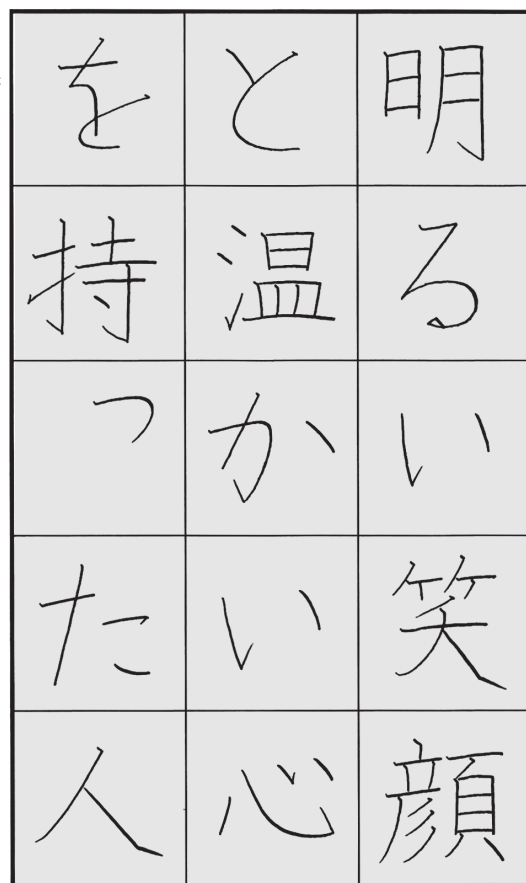
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)



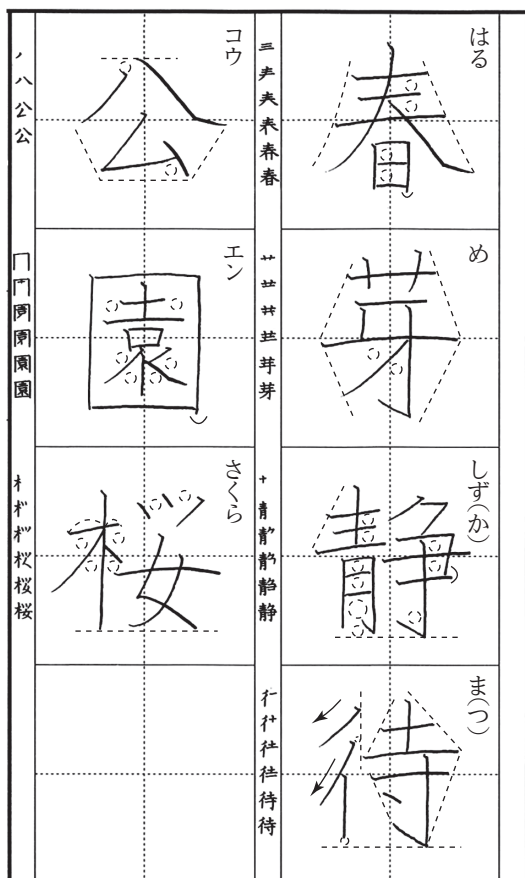
新入〜1級

※笑顔＝単語としてこのように読みます。



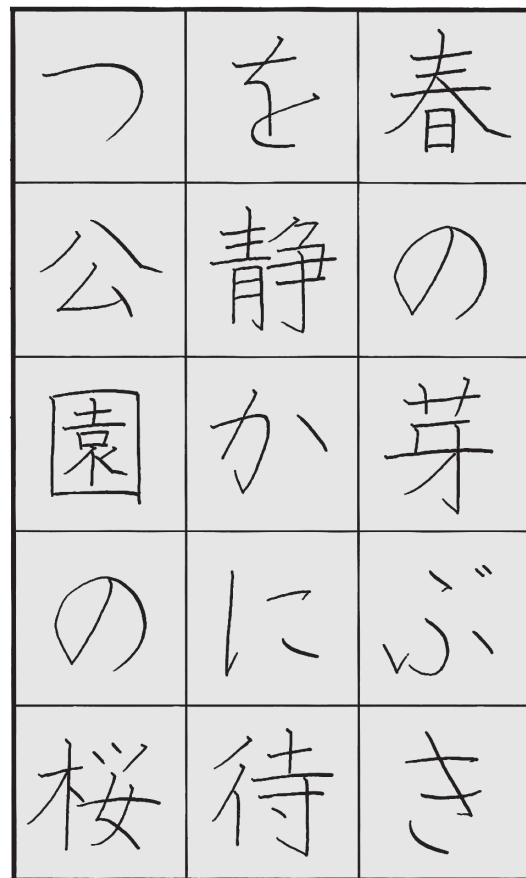
小四年

準初段以上



解説(よく見て習いましょう)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小五年

(全員)

小四年以上
岡嶋桂川書

〈用具〉自由(黒色に限る)

常	家
願	内
優	安
母	全

解説(よく見て習いましょう)

し	常	家
い	に	内
母	願	安
の	う	全
姿	優	を

小六年

(全員)

後	伝	素
世	統	晴
へ	文	ら
継	化	し
承	を	い

中二・三年

(行書)

き	向	新
進	か	た
む	つ	な
決	て	夢
意	突	に

中一年

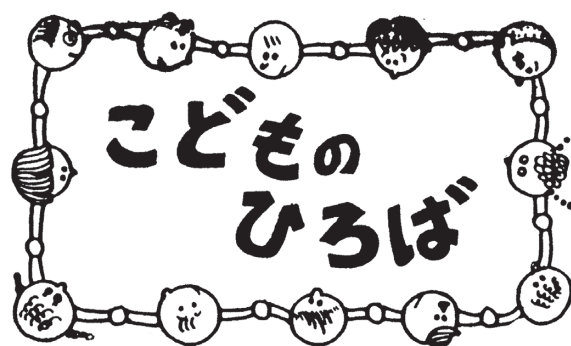
(楷書)

▼小三年以下の課題 ささき けい せん 書
佐々木 恵 泉

元	大	兄	あ	新
気	き	弟	い	年
よ	な	そ	さ	の
く	声	ろ	つ	
	で	っ	は	
		て		



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 1月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 おお はら けい えん 書
大 原 啓 園

感	美	ペ	届	友
動	し	ン	いた	人
した	い	書	た	か
	文	き	年	ら
	字	で	賀	
	に		状	
			は	



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小 二 年

小 一 年

よ う 年



さか い とも こ
酒 井 智 仔 書



さか い とも こ
酒 井 智 仔 書



さか い とも こ
酒 井 智 仔 書

注…コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1
(68cm × 17.5cm) に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

小 五 年

小 四 年

小 三 年

小
五
春を待つ

みず の へき ゆう
水 野 碧 友 書

小
四
温かい心

みず の へき ゆう
水 野 碧 友 書

小
三
生きる力

みず の へき ゆう
水 野 碧 友 書

注：コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1
(68cm × 17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

中二・三年

中 一 年

小 六 年

文化の継承

中二・三

たま き しょう か
玉 樹 小 華 書

新たな決意

中一

たま き しょう か
玉 樹 小 華 書

家内安全

小六

たま き しょう か
玉 樹 小 華 書

注…コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1
(68cm × 17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。